

空土ファーム生きもの調査 9月報告書

1. 調査の概要

1) 調査の目的

山梨県北杜市須玉町増富地域にある空土ファームの耕作放棄地を再耕作することにより、生物多様性がどのように変化するか、周辺環境も含め調査を実施する。また、その調査結果をもとに、一般向け自然観察会の実施や、ハンドブック作成も視野に入れる。

2) 調査方法

①調査レベル：主任研究員クラスによる現地調査

②調査地：山梨県北杜市須玉町増富地区「空土ファーム」とその周辺緑地（図-1）

今回の調査では、4カ所の調査地点を設定し、確認された生きものはどの調査地点で確認されたかを記録した。

③調査対象：鳥類、チョウ・トンボ・バッタ類等の大型昆虫類を中心に、姿・声・行動等を確認すると共に写真撮影を行う。両生類、は虫類、ほ乳類等は適宜調査する。

④調査日程：2019年9月23日 10:00～16:00 9月24日 6:30～15:00



図-1 調査地全景および調査地点

2. 自動撮影装置の設置

C地点に自動撮影装置を設置し、夜間に活動する哺乳類などの記録を行った(図-2)。なお、今回の調査では哺乳類であるツキノワグマ、ニホンイノシシ、ニホンジカ、ニホンリス、ホンドギツネ、ホンドタヌキを記録することが出来た(図-3)。



図-2. 設置された自動撮影装置の様子



ツキノワグマ



ニホンイノシシ



ホンドタヌキ



ニホンジカ

図-3. 自動撮影装置で記録された生きもの

3. 空土ファームで見られた生きものたち

1) 空土ファーム 生きものピックアップ

ガムシ (ピオトープ) :

今回の調査では、B地点内にあるピオトープ池内で、環境省のレッドリストの「準絶滅危惧種」に指定されているガムシが数多く確認されました。ガムシはゲンゴロウなどのように、主に水の中にすむ水生昆虫の仲間で、水草などの植物を食べます。水辺環境の悪化などで全国的に数を減らしています。



ガムシ

2) 各調査地で見られた生きものたち



シマアメンボ (B地点)

湧水や綺麗な小川にしか生息しないアメンボの仲間です。



ミズカマキリ (ピオトープ)

カマキリのように鎌状になった前肢を使い、他の昆虫などを捕らえます。カメムシの仲間です。



タイコウチ (B地点)

ミズカマキリと同様カメムシの仲間で、前肢を使って獲物を捕らえ、体液を吸います。



ツノアオカメムシ (D地点)

ケヤキやミズナラなどにつき、針状の口吻で植物の汁を吸います。



オオチャバネセセリ (D 地点)

全国的に減少傾向にあるとされるチョウの仲間です。アズマネザサなどのササに産卵します。



イカリモンガ (C 地点)

チョウのように昼間に活動するガの仲間です。シダ類に産卵を行います。



ノスリ (D 地点)

小型の鳥類や哺乳類、昆虫類などを食べるタカの仲間です。



メナモミ (D 地点)

花のまわりの総苞片(そうほうへん)などにはベタベタする腺毛があり、果実とともに動物につきます。

3) 空土★生きものコラム ～ピオトープ池に生きものにぎわいが！～

昨年の10月の報告書の中で、ピオトープ池を設置したことを報告させていただきました。あれから一年、今回のコラムでは、池にどのような昆虫が訪れていたか紹介したいと思います。

昨年の9月に池を設置してから今年の夏にかけて、ヒメゲンゴロウやマツモムシなど、ある程度の生きものの利用は見られましたが、周りに田んぼなどの水辺環境が豊富にあるため、池を利用する生きものは少ない状況でした。しかし今年の9月に入り、空土ファームやその周辺の田んぼの水抜きが始まると、状況が一変したようです。先に紹介したガムシをはじめ、ギンヤンマのヤゴやゲンゴロウの仲間、数えきれないくらいマツモムシなどなど、多くの生きものが水辺を求め、ピオトープ池にやってきたのです。

全国には「ふゆみずたんぼ」という、田んぼの水を抜かずに水を張ったままにするという取り組みもあるように、冬の水辺は昆虫の越冬場所などとして、地域の生態系の中で大切な役割を担います。我々が作った池はとても小さい池ですが、地域の生きものに少しでも役に立ってもらえれば嬉しいです。



ピオトープ池で採れた様々な昆虫たち

4. 調査結果

表. 調査地内で見られた生物種(草本)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
A	ミゾソバ	○			
B	イヌタデ	○、Fr			
B	イヌビエ	Fr			
B	ウシクグ	Fr			
B	オオバコ	Fr			
B	キンエノコロ	Fr			
B	コウヤワラビ	○			
B	コナギ	○			
B	コブナグサ	Fr			
B	シマスズメノヒエ	○			
B	シロツメクサ	○			
B	シロヨメナ	○			
B	セイヨウタンポポ	○			
B	セリ	○			
B	タイアザミ	○			
B	ヒメクグ	Fr			
B	ヘラオモダカ	Fr		準絶滅危惧(NT)	
B	メヒシバ	Fr			
B	ユウガギク	○			
B	ヨモギ	○			
C	カナムグラ	○			
C	ギンリョウソウ	○			
C	ゲンノショウコ	○			
C	チカラシバ	Fr			
C	マメアサガオ	○			
D	アオミズ	○			
D	アレチウリ	○、Fr			
D	イタドリ	Fr			
D	イヌタデ	○			
D	ウシハコベ	○			
D	オオアレチノギク	○			
D	オオニシキソウ	○			
D	オッタチカタバミ	○、Fr			
D	カモガヤ	Fr			
D	キケマン	○			
D	キツリフネ	○			
D	キンエノコロ	Fr			
D	クサノオウ	○			
D	コセンダングサ	Fr			
D	シロツメクサ	○			
D	セリ	○			
D	ツユクサ	○			
D	ツリフネソウ	○			
D	ノコンギク	○			
D	ハキダメギク	○			
D	ヒナタイノコズチ	Fr			
D	ヒメジョオン	○			
D	ムラサキエノコログサ	Fr			
D	ムラサキツメクサ	○			
D	メナモミ	○			
D	メヒシバ	Fr			
D	メマツヨイグサ	○			
D	ヤブマメ	○			
D	ユウガギク	○			
D	ワレモコウ	○			
ビオトープ	ミズホオズキ	○			
ビオトープ	ミゾソバ	○			

○:開花 Fr:結実 △:つぼみ ▽:花期終了

表. 調査地内で見られた生物種(木本)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
C	アブラチャン	Fr			
D	アケビ	Fr			

○:開花 Fr:結実 △:つぼみ ▽:花期終了

表. 調査地内で見られた生物種(昆虫)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
A	オオハナアブ				
A	オニヤンマ				
A	キアゲハ				
A	ミヤマアカネ				
B	アカタテハ				
B	アキアカネ				
B	アシグロツユムシ				
B	イチモンジセセリ				
B	ウラギンヒョウモン				
B	エンマコオロギ				
B	オオアオイトトンボ				
B	オツネトンボ				
B	オニヤンマ				
B	オンブバッタ				
B	キアゲハ				
B	キロスズメバチ				
B	キタキチョウ				
B	クロアゲハ				
B	コバネイナゴ				
B	シバズ				
B	シマアメンボ				
B	ジャノメチョウ				
B	シロオビツトガ				
B	セイヨウミツバチ				
B	ツバメシジミ				
B	ツマグロヒョウモン				
B	トラマルハナバチ				
B	ナツアカネ				
B	ナナホシテントウ				
B	ナミハナアブ				
B	ノシメトンボ				
B	ハッカハムシ				
B	ヒメアカネ				
B	ヒメハサミツノカメムシ				
B	ホシササキリ				
B	ホソヒラタアブ				
B	マツモムシ				
B	ミヤマアカネ				
B	モンシロチョウ				
B	ヤマトシジミ				
B	ルリタテハ				
C	イカリモンガ				
C	オツネトンボ				
C	カンタン				
C	キマワリ				
C	クルマバッタモドキ				
C	クロスズメバチ				
C	コガタスズメバチ				
C	トラマルハナバチ				
C	ヒメジャノメ				
C	リスアカネ				

表. 調査地内で見られた生物種(昆虫)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
D	アカイラガ				
D	アキアカネ				
D	アサマイチモンジチョウ				
D	アシナガアリ				
D	アズマオオズアリ				
D	アメリカジガバチ				
D	ウスバキトンボ				
D	ウラギンシジミ				
D	ウラナミシジミ				
D	エンマコオロギ				
D	オオウラギンスジヒョウモン				
D	オオカマキリ				
D	オオスズメバチ				
D	オオチャバネセセリ			準絶滅危惧(NT)	
D	オニヤンマ				
D	オンブバッタ				
D	カブトムシ		死骸		
D	キイロスズメバチ				
D	キタキチョウ				
D	キムネクマバチ				
D	クスサン				
D	クルマバッタモドキ				
D	クロオオアリ				
D	クロヒカゲ				
D	クロヤマアリ				
D	コアオハナムグリ				
D	コアシナガバチ				
D	コカマキリ				
D	コノシタウマ				
D	コバネイナゴ				
D	コブハサミムシ				
D	コムスジ				
D	サクラアリ				
D	シバスズ				
D	スジグロシロチョウ				
D	スズバチ				
D	セイヨウミツバチ				
D	ツクツクボウシ				
D	ツノアオカメムシ				
D	ツバメシジミ				
D	ツマグロオオヨコバイ				
D	トノサマバッタ				
D	トビイロケアリ				
D	トビイロスズメ				
D	トラマルハナバチ				
D	ナツアカネ				
D	ナナホシテントウ				
D	ニホンミツバチ				
D	ノシメトンボ				
D	ハッカハムシ				
D	ハネナガフキバッタ				
D	ハマベアワフキ				
D	ハラオカメコオロギ				
D	ハラクシケアリ				
D	ヒメアカネ				
D	ヒメジャノメ				
D	ベニシジミ				
D	ホシホウジャク				
D	ホソヒラタアブ				

表. 調査地内で見られた生物種(昆虫)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
D	ホソミイトンボ				
D	ホソミオツネトンボ				
D	ミドリヒョウモン				
D	ミヤマアカネ				
D	ミンミンゼミ				
D	メスグロヒョウモン				
D	モンキチョウ				
D	モンシロチョウ				
D	ヤマトシジミ				
D	ヨモギハムシ				
ビオトープ	ガムシ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	準絶滅危惧(NT)
ビオトープ	ギンヤンマ				
ビオトープ	タイコウチ				
ビオトープ	ヒメイトアメンボ				
ビオトープ	ヒメゲンゴロウ				
ビオトープ	マツモムシ				
ビオトープ	ミズカマキリ				

表. 調査地内で見られた生物種(両生類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
B	ヤマアカガエル				
B	ニホンアマガエル				
C	ヤマアカガエル				
D	ヤマアカガエル				
D	ニホンアマガエル				

表. 調査地内で見られた生物種(爬虫類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
B	ヒバカリ				
D	ヤマカガシ				
D	ニホントカゲ				
D	ニホンカナヘビ				

表. 調査地内で見られた生物種(鳥類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
B	モズ	v			
C	アオバト	s			
C	アカゲラ	c			
C	コゲラ	c			
C	シジュウカラ	c			
C	ヒヨドリ	c			
C	ヤマガラ	c			
D	カケス	v			
D	カワラヒワ	v			
D	キセキレイ	v			
D	スズメ	v			
D	セグロセキレイ	v			
D	ノスリ	v			
D	ヒヨドリ	c			
D	ホオジロ	v			

v: 目視 c: 地鳴き s: さえずり fl: 飛翔 fd: 採餌

表. 調査地内で見られた生物種(哺乳類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
C	ツキノワグマ		自動撮影装置	要注目種(N)	
C	ニホンイノシシ		自動撮影装置		
C	ニホンジカ		自動撮影装置		
C	ニホンリス		自動撮影装置	要注目種(N)	
C	ホンドギツネ		自動撮影装置		
C	ホンドタヌキ		自動撮影装置		